

柏崎刈羽原発再稼働に抗議のスタンディング

東京電力は21日、柏崎刈羽原子力発電所の再稼働を強行しました。当初、20日に再稼働を予定していましたが、制御棒の試験を行っていたところ、警報が鳴らないトラブルが発生し、確認作業を行うために再稼働の日程を延期していました。大急ぎで確認作業をやって、1日遅れて再稼働させたことになります。

その柏崎刈羽原発ですが、20日にまた大きな問題が浮上しました。この日、日本共産党の小池書記局長と辰巳孝太郎衆院議員が国会内で記者会見し、中部電力が浜岡原発3、4号機の「基準値震動」のデータを意図的に操作していたことに関連して、データ算出の委託を受けた数社のうち2社が東京電力柏崎刈羽原発の設置変更許可申請書にも地質調査の委託先として名前が挙がっていることを明らかにしたのです。他の原発も同様とのこと。

山中伸介原子力規制委員長は、浜岡原発の不正をめぐり、「水平展開はしない

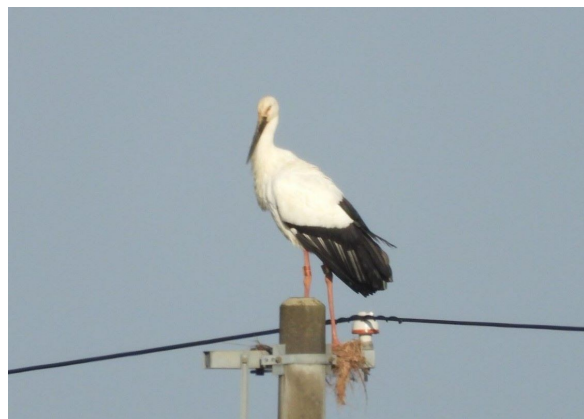
い」(他の原発は調べない)としていますが、不正を行っていない証拠があるならともかく、それも示さないで調査しないというのは原発を厳しくチェックしなければならない組織としてあまりにも無責任です。

こうした動きに県内外で市民グループなどが原発、抗議のスタンディングなどを行っています。

上越市では20日、カニ池交差点で「つなげよう脱原発の輪 上越の会」、「市民連合・上越」、「上越9条の会」などのメンバーが「再稼働を許すな」などのプラスターを持って抗議行動をしま



した。寒風が吹く中でしたが、参加者したみなさんは、「私たちは再稼働を絶対許さない。これからも引き続き行動していく」「これまでもいろいろなミス、トラブルが発生してきた。不安だらけの再稼働だ」などと話していました。



吉川区で子育てをしたコウノトリの親鳥夫婦は17日、19日と吉川区に来ています。写真は電柱上にとまったメス。近くの電柱にはオスもとまっています。(17日撮影)

松代病院を守る会が17日、松之山で行われました。12月県議会でも松代病院を無床の診療所にする条例改悪案が賛成多数で可決されたことから、今後どうしていくかについて意見交換することとこれまでの頑張りやねがらうことが目的です。

参加者は20数人。昨年11月の松代病院を守る大集会の横断幕が掲げられた会場で、全員が自分の思いを語りました。病院の医師や看護師さんなどのスタッフがおられましたし、自分や家族が松代病院に世話になった人が何人もいました。挨拶で私はこれまでの活動にふれ、小堺医師の講演で紹介された生々しい患者さんたちの病気のたかひ、病院スタッフの温かい支援にこそ本来の医療の姿があること、今回の粘り強い運動は今後の運動に生きていくことなどを語りました。

会では小堺医師に引き続き、松代病院に残ってほしいという要請が相次ぎました。また、これまでの運動で一緒になった人同士の暖かい交流が続きました。私は小堺医師とライン交換し、今度、先生が描かれた絵を見せていただく約束をしました。野鳥の会の方ともコウノトリのことや赤ショウビンのことなどで盛り上がり、楽しい時間を過ごさせていただきました。

松代病院を守る会が反省会をやつて交流



【ユリオプスデージー】キク科の属のひとつ。南アフリカが原産地です。常緑低木です。常緑とはいえ、葉には短い白っぽい毛が生えています。花期は11月から翌年の5月ごろまでです。冬の寒さに耐えている、きれいな黄色が目立ちます。花言葉は「夫婦円満」「明るい愛」「円満な関係」など。1月20日、吉川区内で撮影しました。

はしづめ法一の活動レポート

No.2236 2026.1.25
発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3627
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznysg_0808@yahoo.co.jp
URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
←こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第八八三回 また来るしね

従姉が市内の医療介護型施設に入所してひと月以上が経ちました。毎日、母親の様子を見に行っている従姉の長男からは毎日のように画像データが届きます。

私も市役所に行くときだけでなく、直江津や高田に用があるときはこの施設に寄るようになっているので、だいたいの様子はわかっていきます。それでも、送られてくる画像を見ているといういろいろな発見があってうれしくなります。

従姉（いとこ）は私よりも一〇歳年上です。母が生きていたころは、わが家にやってくる、「鳥越のかちゃ」と呼んでいた。です。すから、私が施設を訪問した時も、「かちゃ、なじよだね、元気かね」と声をかけています。

従姉の長男から送られてくる動画では、「母ちゃん」の声が必ず出てきます。「かちゃ」ではなく、「母ちゃん」と呼んでいるんですね。一〇日ほど前の動画では、従姉が目を開けてはいるものの、呼びかけても反応がない状態でした。

それでも従姉の長男は呼びかけます。「母ちゃん、母ちゃん、母ちゃん。だめか。明日、お風呂にいらんてもらえんがし。わかったかね」。その呼びかけには相変わらず動きが見られなかったため、長男は母親の鼻をつつきます。やはりぴくりともしませんでした。

それから三日後、従姉の長男は、「母ちゃん、きょうは何の話する」と声をかけた後、外の様子を従姉に伝えます。「雪もあんまり降らなくていいわ、母ちゃん」と言ったところで、反応がないものだから、髪に触り、鼻にも触っている様子が写っていました。わずか一分足らずの動画でしたが、母を想う子どもの気持がよく伝わってきました。

従姉は呼びかけられても反応しないことが多いのですが、お風呂上がりなど体調がい

いときは目を動かすことがありますし、口を開けてもごもごし、何かをしやべろうとしていることもあります。

ある日のことです。お風呂上がりからの従姉の様子に写っている動画が送られてきました。従姉のほっぺたが何となく光っています。「いかったね、お風呂入ってもらって……」と長男が呼びかけると、従姉は長男の方に目を向けました。そして、口を少し開けました。何かを伝えたいという明らかに意志を感じました。それだけではありません。従姉の頬（ほほ）がゆるみ、うっすらと笑顔になっていました。

その瞬間、従姉の長男がうれしい笑顔になったのは言うまでもありません。「いかったね、おお、いい笑顔だね」という長男の声が聞こえてきました。この日の動画には、「いかったね」という言葉は少なくとも五、六回は出てきました。

従姉の連れ合いは二十年ほど前に急病で亡くなっています。その連れ合いの弟のTさんは、大潟区土底浜在住で、吉川の実家のことを心配して毎日のように従姉の家に来てくださっていました。しかし最近、体調を崩し、介護施設に入所されています。そのTさんと従姉との再会が施設の計らいで先日実現しました。その様子も写真が送られてきました。従姉にとっては信じられない、うれしい出来事だったはず。

従姉の長男が発する言葉の中で、私が一番気に入っている言葉は面会が終わって帰るときの言葉です。「母ちゃん、オレ帰るよ。また来るしね」。この「また来るしね」がとてもいいのです。おそらく従姉はこの「また来るしね」を聞いたたびに、「もう少し頑張つて、また息子の顔を見たい」と思っているのではないのでしょうか。ここ数日は大雪で従姉のところへは行けそうもありません。従姉の長男がどんな動画を送ってくれるか……。

吉川区で新年を祝う会

吉川区新年を祝う会が17日、多目的集会場で行われ、約50人が集まって新年を祝いました。

オープニングは明吟会のみなさんによる詩吟です。中心は吉川区西野島出身で、いまは頸城区で大判焼きを売っている小林さん、その他の4人も全員知っている人です。新春にふさわしい吟詠でした。右のイラストが明吟会のみなさんです。

会がはじまってからは、実行委員会委員長の薄波和夫さんが昨年の吉川区の動きを振り返り、水不足やその他の災害などに言及、「新年は素敵なことがある年に」と抱負を述べ

ました。私は昨年、吉川区は全国的に話題になったと前置き

し、NHKのEテレで川谷最寄りの中山間地農業の取組が今後の農業の在り方を示す事例としてとりあげられたこと、2年連続して吉川区で営業したコウノトリが3羽のヒナを無事育て上げたこと、その子どもたちが北海道に行ったことの2つの事例を紹介しました。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016～0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月14日(水)	1月21日(水)
上越消防署	0.050	0.050
上越南消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.057	0.057
頸北消防署	0.057	0.057
頸南消防署	0.067	0.070
東頸消防署	0.047	0.057
名立分遣所	0.060	0.060
高士分遣所	0.050	0.057

直江津駅やくびき駅など紹介

六角精児の「呑み鉄本線日本旅」、先日は上越市、妙高市、糸魚川市が主な舞台でした。

くびき駅からの米山さんの眺望、直江津駅と懐かしい「鳥まん」が出てきて、感動でした。このところ、鉄道番組では上越がよく登場します。



春よ来い

第八八三回 また来るしね

従姉が市内の医療介護型施設に入所してひと月以上が経ちました。毎日、母親の様子を見に行っている従姉の長男からは毎日のように画像データが届きます。

私も市役所に行くときだけでなく、直江津や高田に用があるときはこの施設に寄るようになっているので、だいたいの様子はわかっていきます。それでも、送られてくる画像を見ているといういろいろな発見があってうれしくなります。

従姉（いとこ）は私よりも一〇歳年上です。母が生きていたころは、わが家にやってくる、「鳥越のかちゃ」と呼んでいた。です。すから、私が施設を訪問した時も、「かちゃ、なじよだね、元気かね」と声をかけています。

従姉の長男から送られてくる動画では、「母ちゃん」の声が必ず出てきます。「かちゃ」ではなく、「母ちゃん」と呼んでいるんですね。一〇日ほど前の動画では、従姉が目を開けてはいるものの、呼びかけても反応がない状態でした。

それでも従姉の長男は呼びかけます。「母ちゃん、母ちゃん、母ちゃん。だめか。明日、お風呂にいらんてもらえんがし。わかったかね」。その呼びかけには相変わらず動きが見られなかったため、長男は母親の鼻をつつきます。やはりぴくりともしませんでした。

それから三日後、従姉の長男は、「母ちゃん、きょうは何の話する」と声をかけた後、外の様子を従姉に伝えます。「雪もあんまり降らなくていいわ、母ちゃん」と言ったところで、反応がないものだから、髪に触り、鼻にも触っている様子が写っていました。わずか一分足らずの動画でしたが、母を想う子どもの気持がよく伝わってきました。

従姉は呼びかけられても反応しないことが多いのですが、お風呂上がりなど体調がい

いときは目を動かすことがありますし、口を開けてもごもごし、何かをしやべろうとしていることもあります。

ある日のことです。お風呂上がりからの従姉の様子に写っている動画が送られてきました。従姉のほっぺたが何となく光っています。「いかったね、お風呂入ってもらって……」と長男が呼びかけると、従姉は長男の方に目を向けました。そして、口を少し開けました。何かを伝えたいという明らかに意志を感じました。それだけではありません。従姉の頬（ほほ）がゆるみ、うっすらと笑顔になっていました。

その瞬間、従姉の長男がうれしい笑顔になったのは言うまでもありません。「いかったね、おお、いい笑顔だね」という長男の声が聞こえてきました。この日の動画には、「いかったね」という言葉は少なくとも五、六回は出てきました。

従姉の連れ合いは二十年ほど前に急病で亡くなっています。その連れ合いの弟のTさんは、大潟区土底浜在住で、吉川の実家のことを心配して毎日のように従姉の家に来てくださっていました。しかし最近、体調を崩し、介護施設に入所されています。そのTさんと従姉との再会が施設の計らいで先日実現しました。その様子も写真が送られてきました。従姉にとっては信じられない、うれしい出来事だったはず。

従姉の長男が発する言葉の中で、私が一番気に入っている言葉は面会が終わって帰るときの言葉です。「母ちゃん、オレ帰るよ。また来るしね」。この「また来るしね」がとてもいいのです。おそらく従姉はこの「また来るしね」を聞いたたびに、「もう少し頑張つて、また息子の顔を見たい」と思っているのではないのでしょうか。ここ数日は大雪で従姉のところへは行けそうもありません。従姉の長男がどんな動画を送ってくれるか……。

吉川区で新年を祝う会

吉川区新年を祝う会が17日、多目的集会場で行われ、約50人が集まって新年を祝いました。

オープニングは明吟会のみなさんによる詩吟です。中心は吉川区西野島出身で、いまは頸城区で大判焼きを売っている小林さん、その他の4人も全員知っている人です。新春にふさわしい吟詠でした。右のイラストが明吟会のみなさんです。

会がはじまってからは、実行委員会委員長の薄波和夫さんが昨年の吉川区の動きを振り返り、水不足やその他の災害などに言及、「新年は素敵なことがある年に」と抱負を述べ



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016～0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月14日(水)	1月21日(水)
上越消防署	0.050	0.050
上越南消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.057	0.057
頸北消防署	0.057	0.057
頸南消防署	0.067	0.070
東頸消防署	0.047	0.057
名立分遣所	0.060	0.060
高士分遣所	0.050	0.057

地元老人会の新年会

22日は毎年恒例になっている代石老人会の新年会でした。私は、大雪だったことで、珍しく始めから終わりまで参加できました。温泉につかり、新鮮な魚料理などをたっぷり食べ、カラオケやおしゃべりを楽しみました。

